

令和6年度第1回 合志市地域公共交通協議会 会議録要旨

〔日 時〕 令和6年6月19日（水）10時15分～

〔場 所〕 合志市役所2階 大会議室

〔出席者〕 松永信弘委員、藤好清一委員、青木正男委員、島田忠昭委員、坂本智子委員、竹原憲治委員、齊場俊之委員、徳丸和行委員、野田徹志委員、山野一平委員、小森田政憲委員、佐々木庸敏委員、宗像正洋委員、白石勇人委員、平野光祐委員、横山朋弘委員、工藤康隆委員、原田和彦委員、円山琢也委員、保坂照美委員、松本幸子委員、今村太郎委員

〔代理出席〕 笹原維俊委員、高松江三子委員

〔欠席者〕 上松秀樹委員、住吉隆典委員、森山悠委員、大川望委員

〔事務局〕 松田市長公室長、佐藤企画課長、池田審議員、山口課長補佐、八浪主幹、渡邊主事

〔協議事項〕

- （1）令和5年度実績報告及び決算について
- （2）令和6年度事業計画（案）及び予算（案）について
- （3）コミュニティバス運行事業評価について
- （4）地域公共交通計画認定申請（案）について
- （5）合志市地域公共交通利便増進計画の策定について

1 開会

佐藤企画課長が開会の宣言

2 委嘱状交付（代表）

荒木市長より委嘱状交付

3 市長挨拶

様々な場所で公共交通の衰退について報じられており、路線バスの廃止等で地域の移動手段の確保に関する議論が日本各地でも行われている。

本市においてはレターバス、乗合タクシーを運行しておりこの運行に対して、様々な地域の声、意見というものがある。それを一つの集約にして、満点を取れな

いのだけでも、合格点を取って、少しずつでもその市民ニーズに応えるような、公共交通体系を作っていきたい。

私は、多極分散型のまちをつくりたいと考えている。

拠点を1か所に集約した方が道路や上下水道などインフラの整備などの面ではメリットがあり、拠点が点在することで費用はかかっていくことになるかもしれない。しかし、市民にとって生まれ育った地域、慣れ親しんだ地域で生活を続けられることは、非常に重要なことであると考えている。

その地域に買い物、医療または福祉、そして行政、こういった施設があることで遠くに移動しなくてもサービスを受けることができる。そこを地域公共交通で結ぶことによって、車に乗ることができない方々の移動手段を確保したいと思い、まちづくりを行っている。

半導体関係の企業が集積をし、渋滞の悪化という問題に対して、国や県やまたは近隣市町そういったところとの連携をしながら、対策を行っていききたい。

4 会長及び副会長選出

事務局一任により、会長に合志市技監松永委員、副会長に熊本大学円山委員を選出

【松永会長挨拶】

先月辻久保地区にゆめモールという商業施設が開業した。御代志地区の商業施設につきましても来年の3月にオープンを目指してやっているということで本市の課題であった商業施設のプロジェクトというものが着々と進んでいる。

一方で、交通環境も大きく変わっていきだろうと予想されている。そういった中で公共交通にはいろんな課題があり、重要なキーワードとしては「連携」と「分担」ではないかと考えている。「連携」というのは周辺市町との連携、各公共交通事業者との連携といったものが大事である。「分担」としてはそれぞれの事業者の分担、利用者と行政それぞれの分担が考えられる。

持続可能な今の公共交通を続けていくためには財政問題、財源をどうするかというものもきちんと議論していくべきである。

【円山副会長挨拶】

交通関係で合志市に関わるのは初めて。会長を支えて合志市の公共交通、あるいは交通全体が、いいものになるようにしていきたい。

様々な課題ある中で、いろんなターゲットに応じて対応を考えていくということ

が重要であるためしっかりと議論していきたい。

5 協議事項

協議事項（１）令和５年度実績報告及び決算について

事務局より協議事項（１）について説明

協議の結果、出席者の承認を経て原案とおり承認された。

【主な意見・質問など】

特になし

協議事項（２）令和６年度事業計画（案）及び予算（案）について

事務局より協議事項（２）について説明

協議の結果、出席者の承認を経て原案とおり承認された。

【主な意見・質問など】

特になし

協議事項（３）コミュニティバス運行事業評価について

事務局より協議事項（３）について説明

協議の結果、出席者の承認を経て原案とおり承認された。

【主な意見・質問など】

齊 場 委 員：円山副会長に質問。2015 年あたりから人口は 10% ぐらい増加しているのにバスの利用者は伸びておらず、車の交通量は増加している。この原因として何か想定されるものはあるか。

円山副会長：原因としてはターゲットを絞れていないのではないかという点。

バスの沿線や、熊本電鉄の沿線であれば、当然公共交通を使えるが、全くそういったものがないような人にとっては、そもそも使いようはない。指標に関してもそもそも移動が公共交通での移動が可能な人なのかそうじゃないのか切り分けて議論することが重要。

北部地域では地域の移動手段を確保するというのは非常に重要。

使えるのに使っていない人たちについても少し検討が必要。

齊 場 委 員：令和 6 年度目標値設定の根拠はあるか。

事 務 局：昨年度末に策定した地域公共交通計画には、令和 10 年度までの目標値が定めてあり、令和 5 年度の実績をもとに毎年段階的に数値を改善させていくことを念頭に設定している。

円山副会長：再編によって経費が増えたが、利用者が伸びてないため、再編の効果が見られないというコメントがあったが、市民の利便性の向上が再編の目的であったとしたら一定の効果が見られたのではないか。経費に関する視点からだけ評価するのではなく、利便性の面から再編の効果を検証してもよかったのではないか。

遅れ時間についてレターバスの遅れ時間の平均が 4 分以内という目標設定があるが、4 分以内に収まった運行本数の割合といった指標でもいいような気がする。

島 田 委 員：乗合タクシーについて利用したいときに乗れないことがある。

事 務 局：本年度、乗合タクシーの運行体系に見直しを含めて検討を進めていく。

島 田 委 員：免許返納を推進するといっても代わりになる交通手段がないのではどうしようもない。

松 永 会 長：南部地域と北部地域では公共交通で解決すべき課題は異なることは承知している。今後の作業部会の場合でも、どうしたら利用してもらえるか考えていきたい。

協議事項（４）地域公共交通計画認定申請（案）について

事務局より協議事項（４）について説明

協議の結果、出席者の承認を経て原案とおり承認された。

【主な意見・質問など】

特になし

協議事項（５）合志市地域公共交通利便増進計画策定について

事務局より協議事項（５）について説明

【主な意見・質問など】

齊 場 委 員：収支率が低いから見直しをしないといけないという点が気になった。特に交通不便地域では収支率が低くても地域の移動手段を確保する必要があると考える。

北部地域で収支率が低くても、南部の運行で利便性を向上させて収支率を改善させていくことが必要ではないか。

松 永 会 長：公共交通は公共サービスの一環であり、収支だけで事業の是非を判断できるものではない。しかし、維持していくためにはどうやっていくか、財源をどうやって確保していくのか考えることは重要。

円山副会長：熊本市でも公共交通空白地帯にAI デマンドタクシーを導入している話もある。運行経費なども考慮しつつ、合志市にとって望ましい姿を考えていく必要がある。

松 永 会 長：前回の再編時も作業部会での議論は時間を要した。今回の再編でも作業部会などの中で活発な議論ができればと考えている。

6. その他

特になし

7. 閉会

佐藤課長が閉会を宣言